

デジタル技術と教育について考える ーフィンランドの事例を中心にー

開催日 : 平成30年7月25日(水) 15:00 ~ 17:10
会場 : 日本工業大学LCセンター 1階マルチメディア教室
趣旨 : 本学先進工学部情報メディア工学科 大橋 裕太郎 准教授は、教育だけでなくIT競争力も世界的に高い評価を得ているフィンランドの研究者らと協力し、同国はじめ世界の情報メディア工学教育における事例の調査・研究を開始した。
本フォーラムは、研究・調査成果の報告にとどまらず、フィンランドにおける情報メディア教育、テクノロジーと教育に関する先駆的な事例に触れながら、参加者一同で新たな教育への道筋を考える機会としたい。

プログラム *同時通訳あり*

○ 開会挨拶 成田 健一 (学長)

○ 15:05-15:20

学内特別研究費による『国際的な教育手法を取り入れた新たな情報メディア工学教育の確立』に関する研究の中間報告：
ーデジタル技術は教育をどのように変えるのかー

日本工業大学 先進工学部情報メディア工学科
准教授 大橋 裕太郎

○ 15:20-16:00

「高等教育でのデジタルリテラシーに対する共同構成的アプローチ」(基調講演)

ディアコニア応用科学大学プリンシパルレクチャラー
Olli Vesterinen (オッリ・ベステリネン) 氏

本プレゼンテーションでは、大学生のためのデジタルリテラシーと、その成長を支える方法について議論する。高等教育機関がデジタルコンピテンシー(デジタル技術に関わる能力や適性)とそれを成長させる重要性を認識することで、学生は将来の就業に向けよりよい準備をすることができる。これらはすべて、デジタルな教育的実践と結びついている。これまでの、何らかの道具に頼った自己評価の手法の先を見据え、現在のデジタルリテラシーに関する研究の中で語られるようになった、共同構成的なアプローチについて解説する。

○ 16:00-16:40 「様々な学習者とテクノロジー」(基調講演)
元小学校教員

Riikka Pöyhönen (リーッカ ポウホネン) 氏

特別支援教育は様々なテクノロジーと結びついています。将来的にヨーロッパでは、ICT製品やサービスを入手する際に求められるアクセシビリティ(入手・利用可能性)の向上によって、障がいがある児童生徒がより簡単に情報にアクセスできるようになるでしょう。アクセシビリティに関する疑問や様々な学習者を実際のレベルで理解するために、北欧の2つの事例を紹介いたします。重要なのは、教えるアプローチを変えることです。果たして、障がいのある学習者だけでなくすべての学習者がよりよく学ぶために、私たちは様々な学習者を未来の教育の中央に据えるべきなのでしょうか？

○ 16:40-17:10 パネルディスカッション

「デジタル技術と教育のあり方について(仮題)」

(パネリスト)

Olli Vesterinen (オッリ・ベステリネン) 氏、
Riikka Pöyhönen (リーッカ ポウホネン) 氏、本学教員

○ 閉会挨拶



Riikka Pöyhönen
(リーッカ ポウホネン) 先生

1979年生。ヘルシンキ大学大学院修士課程修了。
2002年にナミビア大学でICTに関する研究でRAを務め、その後ヘルシンキ大学の大学教育学分野勤務。
フィンランド劇場博物館での研究等もおこなった。ヘルシンキ大学においてスピーチサイエンス分野で修士号取得。フィンランドの小学校教員資格を持ち、教員の経験の中で、特に特別支援教育の知識と技能を身につけた。現在、子育てをしながら理論と実践を行き来した教育活動を日々実践中。



大橋 裕太郎

1981年生。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科博士課程修了。
慶應義塾大学環境情報学部非常勤講師、ヘルシンキ大学メディア教育研究グループポスドク研究員、日本学術振興会特別研究員(PD)等を経て現職。

参加申込 : 学外の方は、本学教育研究推進室へ 以下①②のいずれかにより、お名前、連絡先電話番号をご記入のうえ、お申込みください。

①電子メール(メールアドレス:kyoken@nit.ac.jp) ②FAX (FAX: 0480-33-7713)

お問合せ先 : 日本工業大学 教育研究推進室 〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
TEL: 0480-33-7712 (直通) FAX: 0480-33-7713 (直通)

※お申し込みいただきましたお客様の個人情報は、当フォーラムにかかる業務のためのみに使用いたします。「学校法人日本工業大学 個人情報保護基本規程」(<https://www.nit.ac.jp/privacy/kitei.html>)に基づき、適正な管理をおこないます。